

分科会 2 : 企業がめざす地域における SDGs 人づくり

分科会 2 報告

ファシリテーター
石丸 哲史
福岡教育大学 教授

分科会 2 は、民間企業との連携のあり方を考える上で大変有意義であった。ESD の実質陶冶と形式陶冶の両面が民間企業の試みによって達成されていた。

ESD に向かう産学官民の役割分担では、「補い合う」という考え方が重要となり、そのスタイルのひとつとして各主体間における「困りごとは何か」という相互の問いかけが必要といえる。このことによって繋いでくれる人々が現れ、ネットワークの構築へと向かっていける。まさにコレクティブインパクトの実現である。また、このネットワークのなかで各主体の強みを生かしていくためには、シンプルでかつ楽しみながら ESD を推進していくことが重要である。ただし、各主体のうちいずれが先鞭をつけるのか、あるいは、どちらが先に向かっていくかが、ネットワーク構築の上での課題であるともいえる。